

広島・鴻の巣東遺跡

- 1 所在地 広島県東広島市西条町大字下見
- 2 調査期間 一九九六年(平8) 五月～八月
- 3 発掘機関 (財)東広島市教育文化振興事業団
- 4 調査担当者 永井 康
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 中世末～近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(海田市)

東広島市は広島県中央部南側の、標高二〇〇m～三〇〇mの賀茂台地上に位置している。遺跡は西条盆地西南部の平坦面に立地している。発掘調査は下見中央地区土地区画整理事業に伴って行なわれた。

検出した遺構は掘立柱建物・溝・井戸・土坑・石垣・池などである。遺物は、中世末～近代の陶磁器・土師質土器・木器・瓦などが良好な状態で出土している。

木簡が出土した溝は、井戸とつながっており、排水に関わる遺構と考えられる。これらの井戸などから出土した陶磁器は、中世末～近世初頭のもので、当遺跡のなかでも古い段階の遺構である。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「餅中之式」□

149×21×6 011

遺存状態が良く、原型をとどめており、全面に調整を施している。草書であるが丁寧に書いてあり、土豪又は上層農民など、村落内でも比較的地位の高い人物によるものと考えられる。文字の書風は、中世的な様相を残しており、先の遺物の年代観とも大きく変わらない。性格としては、目録のようなものか付札的なものと考えられる。

なお、木簡の釈文については、広島大学文学部の西別府元日氏にご教示を得た。

9 関係文献

(財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター『阿岐のまほろば』七(一九九六年)、『同』一〇(一九九七年) (立川敏之)

